

男女共同参画トップセミナーを開催しました

12月2日(火)に、前お茶の水女子大学長で、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構理事の郷通子先生をお招きし、「女性研究者の育成と登用は、なぜ必要か? 女性リーダー実現に向けて」というタイトルで、講演していただきました。

国立大学協会のアクションプランでかかげた数値目標に各大学がなかなか追いつかない現状と、それを打破するために組織改革と意識改革の両面から取り組んでいく必要があることを話されました。

ご自身の子育てと研究生活の両立の体験、また組織のトップとして断行されてきたさまざまな組織改革を踏まえ、女性は子育ての時代が一番充実しており、その時代に仕事も一番出来ること、子育てを理由に休まなくても良いような労働環境の整備と、事務系職員も含む広範な制度的支援の必要性を話されました。

また意識改革に関しては、女性研究者の登用がない領域ではどうしても無意識のバイアス、バリアが存在すること、女性が実際に参加しないとそうした点は改善されないことを力説されました。アメリカの名だたる大学の学長を務める女性研究者たちの写真を示され、日本も女性研究者のエンパワーメントには自分が何をめざすか具体的なイメージをもつと同時に、ネットワーク作りが重要と指摘されました。

講演後、学長、理事から定時勤務の厳守や研究支援のための学内制度について、また教員から女性研究者の少ない理工系の研究分野の人事公募について質問があり、終了時間いっぱいまで活発に討論されました。また今回は意識啓発、そして大学トップと共に考える場の提供の試みとして、大分県内の高等教育機関に案内し、APUの副学長にご出席をいただきました。学生にも多数参加してもらいましたが、終了後のアンケートによると、世界に比べ日本の取組が遅れている現状を痛感し、大学に限らず女性リーダーの存在の必要性について各自考えてみる機会になったようです。 (男女共同参画広報・地域連携部門 雲 部門長)



大分大学 女性大学院生の研究と大学生活 理工系の魅力を紹介! 高校生・後輩へのメッセージ



原 麻里子さん

大分大学大学院工学研究科
福祉環境工学専攻
修士1年
(福岡県出身)

研究内容

私は木質構造研究室という木造建築物を専門に扱う研究室に所属しています。この研究室では、建築分野の中でも構造的な観点から研究を行っていて、伝統木造建築物の調査や新しい木材の接合法の開発等を行っています。私は、特にツーバイフォー工法という北米から導入された工法への国産材の利用の推進を目的に強度実験を行っています。

進路決定のきっかけ

幼い頃から日本の古い町並みや伝統建築物を見るのが好きで、将来関わることのできる仕事がしたいと思っていました。ものづくりが好きだったこともあり、工学部の建築コースを選びました。また、木質構造を専門に扱う研究室があったことも大分大学を選んだ理由の一つです。大学院への進学を決めたのは4年生になってからです。与えられた研究を卒論のテーマとして本格的に進めていくうちに、学部で得た知識以外にも自分に足りないことがあるなど実感し、学生のうちにもっと成長したいと思いました。

工学部・工学研究科の魅力

工学部は「身をもって学べる場所」だと思います。特に建築コースは実験、設計製図など、体を動かしながら学ぶ講義が多いのが特徴です。また、建築と一言でいっても各分野で行っていることが全く違うのも魅力の一つです。学部3年次には、早期配属された研究室ごとに実施される建築ワークショップという講義があります。私たちの研究室では、余っている木材を使って何かを作るという漠然とした課題が与えられました。材料の選定、構造計算、デザイン等の全てをメンバーと協力して行わなければならない、何も無いところから形になる「何か」を生み出すということの難しさについて身をもって知ることができました。

高校生・後輩へのアドバイス

大学は学業のこと以外に使える時間が多く、有意義な時間が過ごせると思います。今後の進路や夢について迷っているのであれば、少しでも好きだな、楽しいなと思ったことには、どんなことでも良いので積極的にチャレンジして行って欲しいです。ちょっとしたきっかけで世界はどんどん広がります。

キャリアアップを応援する

大学院生と高校生の交流 オープンキャンパス同時開催「女性研究者と語ろう」



8月8日(金)の大分大学オープンキャンパス開催日、男女共同参画推進室では、旦野原および挾間キャンパスにおいて、「女性研究者と語ろう」を同時開催しました。今まで実施していた「女性研究者と語ろう」に今年度から、高校生にとって5年後の未来像と重なるロールモデルである大学院生との交流を企画しました。

旦野原キャンパスの大学院生7名が、「研究・実験の内容」「研究の魅力」「悩んだときの解決策！」「進路決定のきっかけ」「進学に向けて、勉強のとりくみ」「高校生・後輩の皆さんへ」の内容でポスターを作成、展示しました。高校生からはサークル活動、受験勉強、物理・数学の勉強の方法など具体的な質問が寄せられました。



また昨年度同様に教育福祉科学部、経済学部および工学部の女性教員も研究の魅力、大学に残って研究するという進路の可能性や自身の進路決定のきっかけなどについて語りました。

挾間キャンパスのオープンキャンパスでは、医学科と看護学科それぞれの「進学説明会」会場入り口に、「女性研究者と語ろう」のブースを設けました。

女性大学院生たちのロールモデル・ポスターを掲げ、その院生の皆さんと女性教員(医学科、看護学科)が、立ち寄った高校生や保護者の方々と、質問に答えつつ、にこやかに歓談しました。

また、看護学科会場では、「進学説明会」の中で、室長と看護学科の女性教員、大学院生が、大分大学の女性研究者支援の取組について説明し、研究することの魅力と、女性研究者が結婚・出産・育児等のライフイベント時であってもキャリアを継続できる環境整備により女性にも研究者という選択肢が開かれていることを伝えました。

【旦野原キャンパス】来場者：121人 / 【挾間キャンパス】来場者：未集計 大学院生13名協力参加

女子高校生と工学部女性大学院生の交流会

8月25日(月)に福岡工業大学附属城東高等学校を訪問し、これから大学進学を考える理系志望の女子高校生(1,2年生)およびその保護者のみなさん約25名と、「リケジョ」の身近なロールモデルである本学工学研究科の女性大学院生の美野さん、女性教員の堤先生との交流会を行いました。今回は、佐賀大学男女共同参画推進室とのコ



ラボで、佐賀大学農学部的女性大学院生と女性教員も一緒に女子高校生と意見交換しました。

大分大学工学部の魅力と大学生活について紹介した後、大下部門委員より理系だからこそ将来、英語力が重要になること、石川部門委員から卒業後の就職の現状についてお伝えしました。



タイの理系女子(リケジョ)10名を含む13名の高校生との交流会

日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)に大分大学医学部とタイのSSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)の高校生との交流事業が採択され、10月14日から19日までの6日間、タイの高校生13名と引率教員1名が大分大学を訪問しました。



その中で17日に大分大学の研究者との交流会を行いました。キャリア部門委員であり大分大学さくらサイエンスプラン担当の内田智久先生の司会で、高校生2名の研究発表と質疑応答、研究生活や大学での生活、将来の夢について、英語、タイ語、日本語を交えてのフリートークが行われました。

またいつか大分大学に来て勉強や研究をしたいという発言も数多く飛び出し、会場は盛り上がりました。タイの高校生たちの明るく輝いた笑顔に、参加者一同楽しい時間を共有することができました。

大分大学開放イベント「女性研究者の学会派遣 報告展示」

平成22年度より女性研究者に対する研究活動のサポートとして、学会派遣支援を実施しています。女性研究者10名程度を国内外に派遣し、学会活動あるいは共同研究活動を支援するものです。「国際学会」「国内学会」の2部門に分け、平成23年度からは、大学院生も対象に加えました。春と秋の2回募集を行い、応募者は年々増加しています。

11月3日(祝)の大分大学開放イベント2014の一つの企画として、男女共同参画推進室では、旦野原キャンパスにおいて、「女性研究者の学会派遣 報告展示」を開催しました。



学会派遣支援に採択された大学院生を含む7名の女性研究者が、発表の研究内容、発表後進展した現在の研究内容、学会会場の様子、学会発表の旅行記や研究・学生生活について、ポスターを作成、展示しました。各自のポスター前で、地域の方々から質問を受け、説明しました。

来場者:68人 大学院生6名協力参加



男女共同参画推進のための大学院進学奨励金

主に女性の大学院への進学を奨励する大学院進学奨励金制度が新たにできました。

学部卒業後、さらに専門の研究を続けたい方を応援します。平成27年度進学者から実施

意識をかえる・地域とつながる

教養教育科目「男女共同参画入門」

平成26年10月から全学部生を対象に、「男女共同参画入門」を開講し、男女共同参画教育を始めました。男女共同参画総論、育児、医学、歴史、法律等を含む学際的な立場から、全学部の教員が講師を務め、さらに行政関係者を講師に招き、さまざまな角度からの多面的でインターアクティブな授業を目指しています。

履修生98名 講師:14名 授業:15回(うち4回はグループワーク)



“大分大学の輝く女性研究者 Vol.3” ロールモデル誌発行

大分大学の輝く女性研究者Vol.1(平成24年1月発行)、Vol.2(平成24年10月発行)に続き、平成26年11月にVol.3を発行しました。大分大学で研究を続ける22名の女性研究者が登場しています。今回新たに大学院生11名のロールモデルも掲載しました。

仕事と家庭の両立を応援する

学外者の専門家による相談室

男女共同参画推進室の相談室に10月から学外の相談員(社会福祉士)を配置し、相談活動を開始しました。週に1度、旦野原キャンパスと挾間キャンパスの推進室で皆様をお待ちしております。予約制ではありますが、お気軽にお立ち寄りください。

平成26年8月には、教職員へ向け「教職員のための相談窓口情報」というリーフレットを、旦野原キャンパス版と挾間キャンパス版の2種類で作成し、配付、周知しました。



第16回FAB交流会(挾間キャンパス)

10月30日(木)のランチタイムに、挾間キャンパスの管理棟第3会議室で、「医学科・看護学科 女性研究者交流会」を開催しました。

吉良部門委員の司会・進行にしたがって、全員の自己紹介のあと、当室の事業について説明があり、続いて意見交換を行いました。今回は若手の研究者と大学院生の出席者が多かったことから、出席者各々の状況に応じた、研究を続ける動機を保つことの大切さや、時間のやりくりの仕方が主要なテーマとなりました。また両立についての経験、病児保育室のことなども話題となりました。学科や立場の違う研究者間の交流ができました。



シンポジウム等への参加

第6回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムin熊本(9月20日)

「大学・地域・社会の連携と多様性の実現 社会変革に向けた大学の役割」をメインテーマに、九州・沖縄の11大学ほか共催による第6回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウムが熊本大学工学部百周年記念館で開催されました。

【第1部】では「IBMの経営とダイバーシティ」と題して、日本アイ・ピー・エム株式会社の橋本孝之会長の特別講演が行われました。

【第2部】では九州・沖縄 10大学の理事・副学長による「ダイバーシティという視点から～女性研究者の活躍を広げるために～」をテーマにパネルディスカッションが行われ、本学の西山理事が大分大学の3つの取組①疾患制限なし・急性期対応の病児保育室②女性研究者、特に若手研究者や女性大学院生への研究活動支援(学会派遣支援)③高校生と女性大学院生との交流(高校訪問・オープンキャンパス企画)と教養教育科目「男女共同参画入門」の授業開始などの次世代向け啓発活動について紹介しました。課題等についてコメンテーターやコーディネーターの方々から意見と感想を受け、会場を交えて率直に意見を出し合いました。

最後に「熊本の宣言」を採択して、シンポジウムは終了しました。



女性研究者活動支援事業シンポジウム(11月26日)



女性研究者活動支援事業シンポジウム2014「女性研究者支援とダイバーシティ・マネジメント」が一橋講堂で開催されました。

午前中は、両立支援、意識改革、ポジティブ・アクション(採用、登用)、研究力向上・リーダーシップ育成、次世代育成の施策という6つのテーマの分科会ごとに参加機関がわかれ、グループディスカッションを行いました。大分大学は、分科会「ポジティブ・アクション(採用、登用)」に参加しました。他機関の取組、特に女性の上位職への登用について具体的に知ることができ、今後につなげていきたいと思いました。午後からは基調講演と分科会のグループ成果発表および活発な質疑応答が行われ、参加機関の取組を共有できました。

第6回大分大学技術交流会(12月18日)

《健康生活に貢献する医工連携技術と活躍する女性研究者》セッション

市内のホテルを会場に第6回大分大学技術交流会(産学官連携推進機構主催)が開かれました。本学全学研究推進機構の酒井久美子先生が「質量分析装置で何が分かるか?～医療分析分野への新規参入を目指すには～」、工学部応用化学科の信岡かおる先生が「材料、医薬品開発へのグリーンケミストリーによるアプローチ～液体の塩「イオン液体」の活用～」、医学部看護学科の脇幸子先生が「糖尿病患者のQOLを支える医療と地域の技術コラボレーション～QOL:Quality of LifeへのIT(情報技術)の活用～」との題で、日頃の研究成果を紹介されました。いずれの方も、豊かな可能性を視野に入れて創造的に研究に携わっていらっしゃいました。

